

「郊外園でダイコン収穫」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

金曜日に、東村山市にある「郊外園」に出かけた。ここには小学校の畑があり、毎年、主として3種類の作物を育てている。ジャガイモ、サツマイモ、そしてダイコンである。それぞれの作物は、複数の学年がたて割りで植え付け・収穫を担当している。今回はダイコンの収穫で、2年生と5年生と一緒に活動をした



これがダイコン畑の様子。東京郊外、西武線萩山駅近くの一等地。マンションや住宅に囲まれた畑である。今年も、郊外園の世話をしてくれている方々のおかげで、ダイコンが元気に育っていた。



収穫方法の説明を聞いたあとに、さっそく作業開始。2年生の子どものほとんどは、ダイコンの収穫ははじめてのようで、最初はぬき方がわからずに困っている子どももいた。しかし、5年生に教わりながら、だんだん慣れてきて、一人5本も6本も収穫していた。土の下の大きなダイコンにビックリ!!



郊外園のダイコンは、ほとんどが普通の青首大根だが、桜島大根のように丸い「聖護院」や「赤大根」も作付されている。すべて無農薬なので、葉も食べられる高級品。葉はそのまま持ち帰るのは大変なので、「ねじり切って」別に袋に入れて持ち帰る子どももいた。



たて割り班ごとに収穫した大根を集積して、その後「山分け」にする。2本だけの子もいれば、10本以上袋に詰めている子もいる。体の小さい2年生の中には、自分の体重の半分ぐらいを担いで帰った子もいる。

郊外園から萩山駅までの道では、でんでん虫並みの速度で、「落伍者」が続出した。しかし「家の人が喜ぶから・・・」と必死で駅まで運んでいた。「急行新宿行き」の車内は、すさまじいダイコンの量と、畑の匂いで、常磐線の行商列車のようだった。